


研究者総覧：古田 香織 (FURUTA, Kaori)

氏名	古田 香織 (FURUTA, Kaori)	
職名	准教授	
所属講座	国際多元文化専攻多元文化論講座	
学位（専攻分野）	修士（文学）・東京外国語大学	
メールアドレス	j45914a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~furuta/	
研究分野	文化記号論（コノテーションとイメージの問題）	
	メディア文化論（雑誌と広告）	
	ドイツ語	
現在の研究テーマ	19世紀末のメディア文化論（雑誌“die Jugend”の分析）	
所属学会	日本記号論学会	
	日本マス・コミュニケーション学会	
	日本独文学会	
主要著書・論文	「女性誌を読み解く——女性誌と世代」『言語文化論集』（名古屋大学大学院国際言語文化研究科）30巻1号、2008年、pp.61-73.	
	「女性誌を読み解く 2——女性たちのセミオシス」『言語文化論集』（名古屋大学大学院国際言語文化研究科）31巻1号、2009年、pp.149-163.	
	「雑誌“Die Jugend”のメディア性」『1890-1930年のドイツ語圏の文化・芸術の解体と融合』平成18年度～平成19年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書（研究代表者：西川智之）2008年、pp.72-84.	
	「広告の“誤解の自由”——イメージとコノテーションの問題」『メディアと文化』（名古屋大学大学院国際言語文化研究科）第2号、2006年、pp.1-13.	
	「創られた街——ある都市空間のイメージ」『言語文化研究叢書』（松岡光治編、名古屋大学大学院国際言語文化研究科）第3号、2004年、pp.171-189.	
自己紹介文	<p>高校時代はピアニストになることを夢見ていました。大学ではドイツ語の動詞や前置詞と毎日ならめっこしていました。大学4年生のときに『音楽の記号論』という本に出会い、留学したドイツでは、ドイツ語と音楽にどっぷりつかり、帰国後進学した大学院では記号論に夢中になっていました。名古屋大学に来てからは、ドイツ語を教える面白さと、修辞学（レトリック）の面白さにワクワクしてい</p>	

ました。21世紀に入る頃からは、
 広告を見るのが楽しくなり、女性
 誌の多面的な面白さに魅了されて
 きました。そして、最近では、19世
 紀末のヨーロッパの芸術運動によ
 って生み出された種々の作品に強
 く惹かれ、その中の一つ、ドイツ
 のミュンヘンで刊行された雑誌
 ”die Jugend” を分析して、当時
 の様子を探るためにこの雑誌を読
 み解こうとしています。私が出会
 ってきた、音楽、ドイツ語、記号
 論、広告、雑誌の要素のすべてが、”die Jugend” には、詰まってい
 るように思います。そして、私自身の中にも...！



“die Jugend” 40号 (1896年)

受験生へのメッセージ

人間は、常に様々な形でコミュニケー
 ションを行う生き物だと思います。その
 とき、相手に伝えたいことをより効果的
 に伝える方法を考えて、言葉や身振り手
 振りを用いたり、あるいは何か他のもの
 を用いて必死に伝えようとします。バレ
 ンタインデーにチョコレートを贈って、
 相手への好意を伝えるのもその一つです
 よね。あるいは広告にしても、伝えたい
 ことを直接表現するのではなく、キャッ
 チコピーや色、イメージ、タレントなど
 色々な要素を用いて、伝えたいことをよ



『薔薇の名前』上巻、
 U.Eco 著、川島英昭訳、
 東京創元社

り効果的に伝えようとします。記号論は、相手に伝える、ということ
 がどのように行われ、どのような形でそれが表現されているのか、
 ということを考える上で非常に有益な理論を私たちに提供してくれ
 ます。

記号論それ自体が皆さんの研究テーマとなることはほとんどな
 く、またその対象を文化事象に求める文化記号論であっても、なか
 なかそれが研究と直接結びつくことはないかもしれません。でも、
 皆さんが関心のあることには必ず<何かを表現する>という次元が
 あり、記号論を勉強すれば、きっと何らかの示唆を得られると思
 います。

エーコというイタリアの記号論学者は、推理小説を書き、それは映画にもなりました（『薔薇の名前』）。シャーロック・ホームズの推理には様々な“記号”がいっぱい出てきます。記号論を勉強すると、推理小説を読むような、謎解きの世界に引き込まれたような感じがします。皆さんにぜひ一度そのような世界を体験してもらえたらと思います！